



ワイルドライフ カレッジ 2024

「1年後の私は野生生物のために何かできるようになっている」姿をめざし、年間8回のオンラインでのセミナー（ウェビナー）とフィールドワーク、実践の場として「世界野生生物の日」記念イベントの運営で構成した、ワイルドライフカレッジを開講します。



前期ウェビナー

くらしの中の野生生物保全

- 第1回** 6/12 **水** **生物多様性の定義と保護・保存・保全**
 ～ニュースから見る野生生物保全～
 講師：小川 潔（JWCS代表理事、東京学芸大学名誉教授）
- 第2回** 6/19 **水** **漁業と野生生物保全**
 ～豊かな海を次世代に引き継げる漁業を創る～
 講師：銭本 慧（合同会社フラットアワー 代表）
- 第3回** 7/3 **水** **農業と野生生物保全**
 ～日本のガンの保全・復元と農業との共生をめざした活動～
 講師：呉地 正行（NPO法人ラムサール・ネットワーク日本前共同代表、日本雁を保護する会 会長）
- 第4回** 7/10 **水** **観光業と野生生物保全**
 ～地域課題解決に多くの人を巻き込む～
 講師：村上晴花（北こぶしリゾートクマ活担当）

ウェビナー

開催時間：20：00～21：30

開催方法 Zoom ミーティング形式

※後日、録画視聴可能

申込締切：7月31日

受講料 学生無料、一般 1,000円/回

申し込みフォーム

学生専用

一般



後期ウェビナー

絶滅危惧種を守る

- 第5回** 10/16 **水** **チベットアンテロープの長距離季節移動と中央アジアの自然保護－人間との軋轢について－**
 講師：星野 仏方（酪農学園大学 農食環境学群 教授）
- 第6回** 10/30 **水** **コンゴでの養蜂教室と包括的保全活動**
 講師：萩原 幹子（JWCSプロジェクトスタッフ）
- 第7回** 11/13 **水** **小型サンショウウオを取り巻く問題と保全活動の取り組み**
 講師：田上 正隆（世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ、職員）
- 第8回** 11/27 **水** **ユキヒョウを通して動物園と野生動物、人と人のつながりをつくる**
 講師：木下こづえ（非営利団体 twinstrust 理事長、京都大学大学院 アジアアフリカ地域研究科 准教授）

野生生物との
付き合い方を考える

フィールド 9/7-8 ワーク 土日

北海道 襟裳町 を訪問して、ゼニガタアザラシと人間の共存について考えます。漁業被害問題や、共生のための対策について学びます。

【訪問先】北海道 襟裳町

【参加費】無料 ただし現地集合・解散 宿泊費実費負担
 新千歳空港～襟裳町および現地移動のバスを用意
 学生は宿泊補助有（食費実費負担）

【参加条件】前期ウェビナー全4回受講

【申込受付期間】7月10日～7月31日

【定員】15名

【講師】ゼニガタアザラシ研究会

無料 / 2025/3/15
**オンライン
 シンポジウム** 土

野生生物保全の担い手になるには
 2022年から行ってきたワイルド
 ライフカレッジのまとめ
 となる内容を予定
 しています。

対面 / 実践活動 2025/3/2日

世界野生生物の日記念イベントの運営

「野生生物の日」にちなみ、野生生物の保全についての
 普及啓発活動をのんほいパーク（豊橋総合動植物公園・愛知県）
 で行います。



地球環境基金
 Japan Fund for Global Environment

「ワイルドライフカレッジ 2024」は独立行政法人環境
 再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。

ウェビナーについて

野生生物の保全に関わりたい！でもどうやって？ワイルドライフカレッジ2024ウェビナーでは、野生生物保全のさまざまなアプローチをテーマに、前期では日々の暮らしと近いところにある野生生物保全について、後期では絶滅危惧種を守る活動に焦点を当てます。また多数の受講生からの「将来の進路を考えるために受講した」という声を受け、各講師が「これまで何を勉強してきたか」など保全活動に至るまでの経緯もお話します。

【申し込み】必要（学生は1回の申し込みで前期・後期の全8回が受講できます。）

受付期間：5月31日～7月31日

【参加費】学生：無料、学生以外：1,000円/回

申し込みフォーム

学生専用

一般



前期ウェビナー(全4回) — 暮らしの中の野生生物保全 —



第1回 生物多様性の定義と保護・保存・保全 ～ニュースから見る野生生物保全～

講師：小川 潔（JWCS 代表理事・東京学芸大学名誉教授）

内容：買ってきた外来種でビオトープを作ったら、生物多様性の保全になる？最近のニュースを題材に生物多様性の定義や保護、保存、保全の考え方の違いなど基本的な理論を解説します。

#生物多様性、#保護、#保全、#外来種と在来種、#生態系



第2回 漁業と野生生物保全 ～豊かな海を次世代に引き継げる漁業を創る～

講師：銭本 慧（合同会社フラットアワー 代表）

内容：生物多様性減少の要因の2位は「野生生物の過剰利用」。1位の「土地利用の変化（農地化）」も合わせると、食べ物の生物多様性減少への影響は大きいといえます。では、保全と消費の適切なバランスとは？持続可能な資源の利用やビジネスモデルとは？持続可能な漁業の実現に向けた取り組みの実践を紹介します。

#持続可能な漁業、#持続可能な働き方、#保全と消費、#対馬、#地域の資源活用



第3回 農業と野生生物保全 ～日本のガンの保全・復元と農業との共生をめざした活動～

講師：呉地 正行（NPO法人ラムサール・ネットワーク日本前共同代表、日本雁を保護する会会長）

内容：日本に渡来するシジュウカラガンの個体群は、かつては絶滅寸前といわれていましたが、狩猟の規制や生息地に行っている田んぼの環境の改善などが実を結び、個体数を増やしています。農業を通じてできる野生生物保全について考えます。

#生き物米、#循環型農業、#シジュウカラガン、#ふゆみずたんぼ

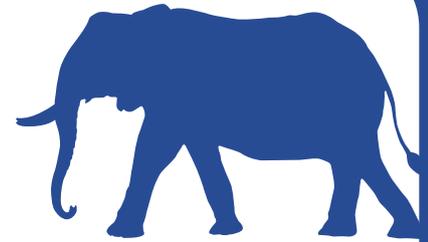


第4回 観光業と野生生物保全 ～地域課題解決に多くの人を巻き込む～

講師：村上 晴花（北こぶしリゾート経営戦略室 広報・リクルート・クマ活担当）

内容：世界自然遺産 知床でホテル業を営む「北こぶしリゾート」が2020年から始めたヒグマとの共存を目指す活動『クマ活』では、地域課題であるヒグマと人の軋轢の解消を目指した草刈りなどのアクションを行っています。地域住民やホテルスタッフだけではなく、ホテルの宿泊客や関係企業、学生など様々な人を巻き込み実践していく、人と自然との共生を一緒に考える活動について紹介します。

#ヒグマ、#自然との共生、#野生動物との距離



後期ウェビナー(全4回) — 絶滅危惧種を守る —



第5回 チベットアンテロープの長距離季節移動と中央アジアの自然保護 —人間との軋轢について—

講師：星野 弘方（酪農学園大学 農食環境学群 教授）

内容：チベットアンテロープは、その毛の需要から乱獲され生息数が減少し、世界的にも取引が制限されている動物です。チベット高原を横断する鉄道がもたらすチベットアンテロープの季節移動への影響や、家畜の放牧と黄砂の発生との関係など、人間との軋轢とその保護の取り組みについて紹介します。

#チベットアンテロープ、#家畜の放牧、#黄砂、#企業活動



第6回 コンゴでの養蜂教室と包括的保全活動

講師：萩原 幹子（JWCSプロジェクトスタッフ）

内容：2023年9月に世界遺産に登録されたオザラ・コクア国立公園（コンゴ共和国）の入口があるンボモ村は、近年マルミミソウによる農業被害が激しく食糧不足になるほどでした。ゾウによる被害が発生した際の新たな生計として、最も村人から支持されたのが養蜂です。現地の人々の暮らしを守ることがどのようにゾウの保全に繋がるのか、野生生物との共生とは何なのか、一緒に考えましょう。

#マルミミソウ、#人間と野生生物の軋轢、#アフリカ、#養蜂



第7回 小型サンショウウオを取り巻く問題と保全活動の取り組み

講師：田上 正隆（世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ 職員）

内容：普段は森林の石の下などでひっそりとくらす小型サンショウウオ。日本には約50種も生息しており、ほぼすべての種が日本固有種です。生息地の破壊や乱獲により、多くの種は絶滅危惧種に指定されているとともに、各地で保全活動も行われています。あまり知られていない小型サンショウウオの分類や生態について紹介するとともに、小型サンショウウオを取り巻く問題や水族館が関わる保全活動の取り組みについて紹介します。

#小型サンショウウオ、#足元の自然、#生息地の破壊、#水族館の保全活動



第8回 ユキヒョウを通して動物園と野生動物、人と人のつながりをつくる

講師：木下 こづえ（非営利団体 twinstrust 理事長、京都大学大学院 アジアアフリカ地域研究科 准教授）

内容：絶滅の危機に瀕するユキヒョウは12か国にまたがるアジアの高山に生息し、さまざまな文化・宗教の下で人との関りをもっています。本カレッジでは、国内の動物園で飼育されているユキヒョウと野生のユキヒョウをつなげる活動や、動物園を通して生息国の人々となつなげる取り組みについてご紹介します。

#ユキヒョウ、#アジア、#動物園、#生息地での環境教育

フィールドワーク (全1回、1泊2日) —野生生物との付き合い方を考える—

北海道東部の沿岸部から南千島列島に生息するゼニガタアザラシは、絶滅の危機に瀕している動物です。しかし、魚網に入った魚を食い荒らすことや、網の中の魚を追いかけ外に出してしまうような被害も多く発生しています。アザラシと漁業の問題を解決するために調査を行う「ゼニガタアザラシ研究会」のメンバーと共に、人間とアザラシがどうしたら共存していけるのか考えます。

【日時】 2024年9月7日（土）～9月8日（日）

【訪問先】 北海道 襟裳町

【参加費】 無料 ※ただし現地集合・解散、宿泊費実費負担
新千歳空港～襟裳町および現地移動のバスを留意。
学生は宿泊補助有（食費実費負担）

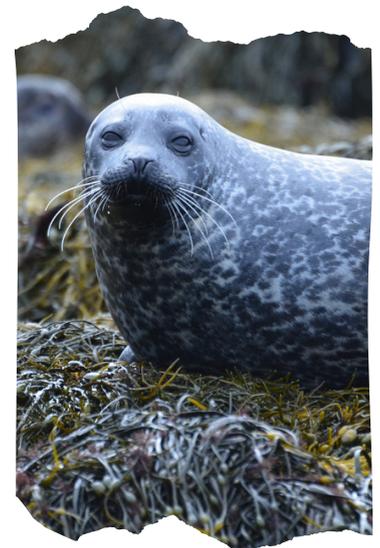
【参加条件】 前期ウェビナー全4回受講

【申込受付期間】 7月10日～7月31日

【定員】 15名

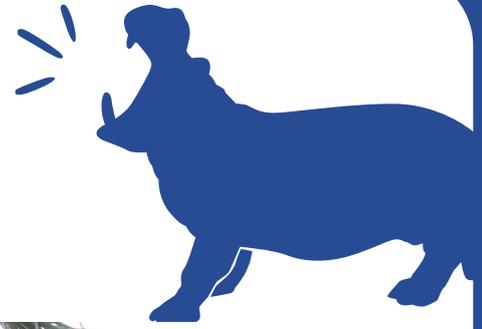
【講師】 ゼニガタアザラシ研究会

注意事項：一般の方は新千歳空港までの往復交通費、
宿泊費、食費すべて自己負担となります。
詳細は第4回のウェビナーでお話致します。



実践活動： 世界野生生物の日記念イベントの運営

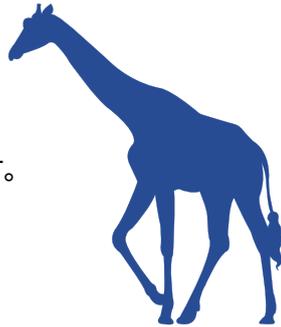
—普及啓発活動の運営を通じて野生生物を知り、
保全のために伝えるべきことを考えよう—



ワイルドライフカレッジ2024で野生生物保全の理論、国内や海外の活動事例を学んだことを生かし、実際にJWCSの活動に加わり、「世界野生生物の日」の記念イベントの運営に参加します。

活動

- 【日程】 2025年3月2日（日）（雨天決行）
- 【場所と内容】 のんほいパーク（豊橋総合動植物公園・愛知県）からのライブ中継を予定
- 【申込】 必要（定員 10名）
- 【対象】 ワイルドライフカレッジ2024の全ウェビナーを受講した方
- 【参加費】 無料 ※ただし現地集合
遠方の学生には交通費を補助します。
- 【募集期間】 2024年11月27日～12月11日



写真：ワイルドライフカレッジ2023での活動

オンラインシンポジウム

—野生生物保全の担い手になるには—

2021年より行ってきたワイルドライフカレッジの3年間のまとめとして、全24回のウェビナー、3回のフィールドワーク、実践ゼミ等を振り返ります。シンポジウム参加者や受講生のアンケートで寄せられた声に耳を傾け、野生生物保全の次の一步を考えます。

- 【日程】 2025年3月15日（土）
- 【場所】 オンライン（Zoom）
- 【申込】 必要（定員 90名）
- 【対象】 どなたでも
- 【参加費】 無料



次年度インターンシップ

—JWCSの一員として主体的に活動する—

ワイルドライフカレッジの目標である「一年後の私は、野生生物のために何かができるようになっていく」、その「何か」の一つの選択肢として、ワイルドライフカレッジ2024で得た知識や知見・経験を活かし、中・長期のインターンシップ制度でJWCSの一員として活動してみませんか？ イベントの企画・運営・普及啓発などを通じて、より深くJWCSの活動に関わってくれる方を募集します！

活動

- 次年度のワイルドライフカレッジの運営
- JWCSが主催するイベント企画の運営
- SNS等を活用した普及啓発活動
- 調査提言活動の補助 など

応募条件：ワイルドライフカレッジ2024受講者



お問い合わせ

- お問い合わせフォーム
<https://www.jwcs.org/contact/>
- JWCSウェブページ
<https://www.jwcs.org/>



認定NPO法人 野生生物保全論研究会(JWCS)



「ワイルドライフカレッジ 2024」は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。